

令和3年度 中津市社会福祉協議会 事業報告

事業報告概要

今日、地域福祉を取り巻く状況は少子高齢化の進行や人と人との関係性の希薄化などにより、社会的孤立や生活困窮等の問題が顕著化し、個人や家族の福祉課題が多様化・複雑化し、昨年からの収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の影響で、各種イベントの中止やコミュニティーセンター・公民館など地域の活動拠点の利用制限など日常生活に大きな影響がでている中で、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として個別支援と地域づくりに継続して取り組みました。

国では、地域共生社会の実現を掲げ、支える側と受けて側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が自分で出来る範囲で役割を持ち、お互いに支え合いながら、自分らしく活躍できる地域を共に創っていく社会を目指している中で、中津市と協働して「第4次中津市地域福祉計画・中津市地域福祉活動計画」策定に住民と共に取り組みを行いました。地域福祉ニーズが多様化・複雑化している中で、公的な福祉制度のみに頼らず、住民参加による地域の支え合いを実現していくために、地域の住民や各種団体が主体的に参加して策定する民間の活動・行動計画ができました。

また、介護保険事業では新型コロナウイルス感染症の影響で在宅サービスを利用される方が減少し、施設や病院など利用して在宅サービスを一時的に控える傾向がみられ経営的に厳しい年となりました。その様な中、経営改善に向けて事業所職員とともに考えていく“山間地域あり方検討会”を立ち上げ数多くの改善策に取り組むきっかけができました。

令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染対策を講じながら、人と人とのつながりや地域社会との関わりをつないでいく視点を重視し活動を展開しました。

本会における経営状況の分析や今後の組織体制についての検討や、安定的で継続可能な財源確保に向けての調査研究を行いました。また、深刻な福祉人材不足への対策として、県内の社協で初めて外国人人材（特定技能1号【介護】）の確保、採用を行い、職員不足の安定化を図りました。更に国の各種法改正に対応した管理職員等への勉強会の開催や法に準拠した規程の整備を適宜行いました。

総務課 重点目標

(1) 公益性を担保する組織経営の推進

組織経営について、経営会議における経営状況からの適正な事業運営に向けた経営判断や各種関係法令の遵守に対応すべく、顧問社会保険労務士や税理士等による管理職員向けの勉強会を行いながら、本会規程の変更などを迅速に行いました。

(2) 安定的な財源確保に向けた財政運営の推進

寄付金などの自主財源確保のための取り組みとして、ホームページやフェイスブック、広報紙等で随時更新を行い、社協の地域福祉活動への幅広い理解と協力を求めました。また、資金を集めるファンドレイジング制度の導入に向け、県社会福祉協議会で開催された研修会へ役職員が参加しました。今後も導入に向けて検討を行っていきます。

また、国の介護職員への処遇改善措置が臨時追加された交付金についても迅速に申請を行い、介護職員への処遇改善による雇用定着に向けた取り組みを行いました。

(3) 効果的な人事管理の推進

今年度も職員全員への管理職による面談や人事評価を行いながら、人員配置や採用計画の参考としました。また、わかりやすい仕事内容の掲示や求人募集チラシを市内に加えて他市を追加して配布し、人材の確保に努めました。

また、継続して続く人材不足について、新たな試みとして特別養護老人ホームやすらぎ荘に、特定技能1号【介護】外国人人材（フィリピン国・3名）を雇用しました。

地域福祉課 重点目標

(1) 住民参画の地域共生社会を推進する地域福祉基盤体制の構築

住民主体の地域福祉基盤体制づくりの重要な取り組みである「第4次中津市地域福祉計画・中津市地域福祉活動計画」（以下、「なかつ地域支え合いプラン」）策定に年間を通して取り組みました。まず、コロナ禍の中であってもできるだけ多くの方の意見を集約できるよう、第3次計画の振り返り、また、ひきこもりや成年後見制度等、新たな地域福祉課題に気づいていただけるような「福祉教育」という視点の内容のアンケート調査をし、1,004名の方にご回答いただきました。その結果をもとに各地区の作業部会を開いたことで、さまざまな意見の合意形成の上に地域づくりが成り立つという地域福祉の基本の取り組みができました。このことは、計画の策定委員会でも好意的に評価いただき、将来的に今後の策定手順として定着させていくこととなり、今後の策定方針に役立ちました。

また、年間を通じて行われた各地区5回ずつの計75回に及ぶ作業部会の開催は、職員が担当地区別に分かれ、それぞれが責任を持って取り組んだことで、各地区の特徴を生かした話し合いが進められ、地域住民と社協との協働での「地域福祉活動計画」づくりが実践できました。

(2) 権利擁護支援体制づくりに向けた中核機関の整備

令和3年度の新規事業である「成年後見支援センター事業」(中核機関)を本格的に実施することになり、これまで法人後見事業の一部として行っていた相談受付や制度の広報等の方針が立てやすくなりました。また、多様な専門職による第三者的視点での「受任者調整会議」を開催することで、成年後見制度の利用が必要な方に対し、その方の状況に応じ、適切な候補者の選任などの協議が行われました。その受任者調整会議に先立って、直接の関係者同士で協議する「権利擁護支援方針検討会議」は、随時開催も含めて、計24回開催し、62の案件について話し合いました。この機会を通じ、さまざまな立場の支援者に対し、改めて制度について理解を進める機会となり、制度利用者・利用希望者の権利擁護の支援が円滑に行える地域社会づくりの一助となったと考えます。

しかし、令和3年度に予定していた介護支援専門員を対象とした「成年後見制度利用に関する研修会」はコロナ禍で開催できず、令和4年度に延期となりました。

(3) 総合相談支援体制の構築

平成29年度から開始した「暮らしの総合相談窓口」は、年間約300件の相談数を推移していましたが、令和2年度に引き続き、令和3年度についてもコロナ禍の影響で経済的支援が必要な方や精神的な不安を抱えた方から等で相談数が増え、令和3年度は813件の相談件数となりました。相談件数の増加により、初期対応をする職員も困窮担当職員だけでなく、全体的に増えたことから、社会福祉協議会職員として「傾聴」と「自立支援」の視点を持った相談窓口の重要性について認識する機会となりました。

また、地域への周知の機会として、第4次「なかつ地域支え合いプラン」の作業部会を通じて、さまざまな地域福祉課題を話し合う中で、社会福祉協議会が身近な総合相談窓口であることの周知に努めました。

(4) 孤立しがちな人への支援の充実

ひきこもり支援事業が2年目となり、家族交流会も定着してきました。相談件数については特段増えてはいませんが、「不登校・ひきこもりの親の会」の場への定期的な参加をしていくことで、信頼関係を作ることに努めました。また新たなニーズ把握を目的に、8050問題に焦点をあて、市内の居宅・包括の26事業所の職員の方々にアンケート調査をしたところ、106名の方に回答いただきました。その結果、高齢者支援を通じて家族に引きこもり状態の人がいるとこれまで感じたことがある経験をお持ちの方がおよそ20%いらっしゃるということがわかり、今後の連携のきっかけづくりとなりました。

さらに、具体的な支援として、合同会社「は・た・ら・け・る」の協力により、ひきこもりがちな方の就労体験の機会の提供ができ、中小企業家同友会中津支部との情報共有の機会を持つこともできました。

(5) 生きがいと安心感を持って生活できる地域づくり

過疎・高齢化が進む地域において、高齢者が生きがいと安心感を持って生活できるよう、サロン活動の大切さや継続の工夫について学ぶ研修会を、本耶馬溪・耶馬溪地区で実施しました。また、本耶馬溪・耶馬溪地区で継続している見守りネットワーク活動については、令和2年度に引き続き山国地区にて新たに2カ所を取り組みが開始し、3エリアで計33の見守りネットワークが組織化されています。

さらに、地域包括支援センターが推進する週一体操教室についても、コロナ禍で実施を悩まれているお世話役の住民の方と連絡を取り合いながら、実施や新規立ち上げに向けての相談支援を行ってきました。そのような住民活動を支援する取り組みとして、エリア別の地域福祉情報紙の発行回数も増やし、情報提供により地域福祉の充実を図りました。

在宅福祉課 重点目標

(1) 山間地域への在宅サービスを継続的かつ安定的に行っていくための事業の再編

近隣での民間事業所の増加や長引くコロナ禍等の影響により利用者数の減少が著しい、「生きがい元気アップクラブ三光」(通所型サービスA)をR3年度末で廃止し、デイサービス等で一体的にサービス提供の継続、安定した運営を目指すべく、事業の再編を行いました。

なお、廃止等に当たっては、移管先の事業所等と連携を図り、利用者へのサービス提供に支障がないように努め、円滑に引継ぎを行いました。

また、デイサービス事業においては、職員数の削減、事業所間での応援体制による、人件費の削減や広報活動の強化とて、パンフレットの作成を行いました。

(2) 単なるニーズの充足に留まらないサービスの展開

「山間地域における在宅福祉サービスあり方検討会」において、利用者から選んでもらえるデイサービスには何が必要かをテーマに、意見を出し合い、中長期で進めて行く具体的な実践目標の整理を行いました。また、それを可能とする職員の意識向上や組織内の連携体制(部門間の連携)の強化を引き続き図っていきます。

(3) 人材の確保と利用者や家族の思いに寄り添ったサービス提供

山間地域においては、人材の確保は大きな課題のひとつであるため、事業所間応援シフトによる協力体制の取り組みや、令和4年2月から9月まで実施する介護職員処遇改善支援補助金を取得し、処遇面の改善を図りました。

また、利用者や家族へのアンケート調査でのご意見を真摯に捉え、より思いに寄り添ったサービス提供を目指すべく業務の見直しを行いました。

福祉サービス課 重点目標

(1) 三光児童館を拠点とした地域の子育て支援の推進

令和3年度の前期は、三光コミュニティーセンターの整備工事のため、児童館を旧三光公民館で開所し、夏休み等外遊びを充実することができました。令和3年9月22日にリニューアルオープンし、床面積等も広くなり地域子育て拠点としての子育て中の親子が利用しやすいような備品等の環境を整え、乳幼児家庭の利用も増えました。新型コロナウイルス感染症については空気清浄機等の設備を整え、対策も徹底したうえで利用者のニーズにこたえるべく子育てサロンの開催をしました。

(2) 放課後児童クラブの質の向上

各児童クラブとも保育目標をもって、子どもたちが安心して安全に過ごせるように取り組みました。ICT 化推進事業を活用し、各児童クラブに研修用パソコンの整備を行いウェブ研修にも取り組みましたが、保育園や児童等のコロナウイルス感染症者の増加等もあり、限られた研修となっており今後の課題としています。真坂児童クラブの小学校内移転については、設備整備に取り組み令和4年3月23日で1年が経過しました。体制を強化して安全面に配慮した運営を行ないながら、学校との連携も含め今後も継続していきます。

(3) 生活支援ハウス・ホームで安心して生活できる支援の充実

今年度は、「やすらぎ荘・豊寿園の合同ウェブ研修会」に全職員で参加し資質の向上に取り組みました。新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底に取り組み、ワクチンのスムーズな接種の支援等も行いました。感染者数が少ない時期等には、紅葉狩りや買い物外出などのレクリエーションにも積極的に取り組み入居者の介護予防に努めました。大雨時や台風時には早めの避難を実施し、入居者の安全の確保に努めました。

「本耶馬溪生活支援ハウス」は、裏山崩落の危険性があり入居者に転居していただき、令和3年度末をもって閉所となりました。

豊寿園 重点項目

(1) 積極的な入所者“生きがい”活動の推進

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により行事の縮小や外出、面会の中止等、入所者は著しい生活上の制限を受けることとなりました。また1月には職員1名の感染が発覚しましたが、保健所等の指導を受けながら対策を講じたことでその後の感染拡大はありませんでした。

入所利用については、生活相談員による中津市や他市町村行政、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所との連携のほかに、自治委員や民生委員にも協力して頂きながら入所・自立支援（在宅生活）につなげることができました。

(2) 職員の知識・意識改革を推進

運営については、関係法令を遵守し、入所者の人権を尊重し快適な居住環境を提供するべく、職員一同がプロとしての自覚を持ち、多職種間で連携を図りながらサービスの提供を進めてきました。また、気持ちよく施設にお越しいただけるよう日頃から環境美化に取り組み、来館者や入所者等の送り迎えの際の接遇マナーを徹底してきました。

(3) 様々な場面における地域との“つながり”を推進

自主事業については、新型コロナウイルス感染防止のためやむなく、ふれあい祭りや鶴居小学校等、地域との交流行事を中止せざるをえなかった一方で、換気やマスク・手指消毒を行う、蜜にならないよう少人数のグループで行う等、感染防止対策を講じながら出来る行事

や活動は工夫しながら実施しました。外出自粛が続く中、ストレス軽減やフレイル予防を図るため、身体を使った活動を積極的に取り入れたほか、ドライブ等の機会を持ちながら ADL の維持に努めました。

やすらぎ荘 重点項目

(1) 健全で安定的な経営の推進

積極的な業務の効率化として、ノーリフティングケア用福祉機器の導入を行うことで、職員の身体的負担の軽減や、少ない職員で介助が出来るように工夫しました。今後も引き続き職員のコスト意識を高め改善を進めていきます。

各種加算の取得については、昨年 4 月に介護報酬改定で新設された「科学的介護推進体制加算」の取得を行いました。また、国の経済対策「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づき、介護職員を対象に賃上げ効果が継続される取組を行うことを前提として収入を 3%程度引き上げるための措置を、令和 4 年 2 月から 9 月まで実施する介護職員処遇改善支援補助金を取得しました。

(2) 感染症・食中毒予防及び入所者・職員の健康管理の推進

「感染症・食中毒予防研修会」については各 2 回実施し、豊寿園と ZOOM でつなぎ合同で開催しました。

施設系サービスにおいては入所者が集団で生活する場であり、その特性を踏まえた対応が重要であると考え、感染対策を徹底し、感染症の発生をなくすことが目標ではありますが、施設で感染症が発生した場合には、感染拡大を防止することが求められ、適切な対応を実施することが必要と考え、今年度は研修を通して感染症に対する基本的な知識を学ぶとともに、看護師指導の下ゾーニングの考え方、N95 マスクの正しい着脱方法、各ゾーン進入時の个人防护具（PPE）着脱方法などの実技を交え職員研修を行いました。

職員の毎日の検温、また少しでも気になる症状があれば積極的に抗原検査の実施を行いました。入所者についても嘱託医が適宜抗原検査を実施しました。

(3) 地域とのつながりを推進し開かれた施設を目指す

やすらぎ荘近隣の人口減少、住民の高齢化による地域とのつながりの希薄化も深刻になっており、また、今年度もコロナウイルス感染症の影響で施設のイベントが中止や、規模を縮小し施設内だけの開催となり、地域との交流ができていないのが現状です。そのような中、12月に家族会による施設外回りの清掃活動、また、年末には耶馬溪ライオンズクラブにより、門松の製作をしていただきました。

1. 法人会務の運営

1) 理事会

第1回 令和3年6月7日(月) 13時30分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

- 出席 17名 監事出席 2名
- 第1号議案 令和2年度事業報告
- 第2号議案 令和2年度決算報告について(監査報告)
- 第3号議案 令和3年度第1次補正予算について
- 第4号議案 評議員候補の推薦について
- 第5号議案 評議員会の招集について

第2回 令和3年6月23日(水) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

- 出席 14名 欠席 2名 監事出席 2名
- 第1号議案 会長、副会長及び常務理事の選任について
- 第2号議案 評議員候補者の推薦について
- 第3号議案 評議員選任・解任の選任について

第3回 令和3年11月25日(木) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

- 出席 15名 欠席 1名 監事出席 1名
- 第1号議案 令和3年度第2次補正予算について
- 第2号議案 規定の変更について
- 第3号議案 評議員会の収集について

第4回 令和4年3月15日(火) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

- 出席 12名 欠席 4名 監事出席 2名
- 第1号議案 令和3年度第3次補正予算について
- 第2号議案 令和4年度事業計画について
- 第3号議案 令和4年度当初予算について
- 第4号議案 規定の変更について
- 第5号議案 役員等責任賠償保険契約について
- 第6号議案 評議員会の招集について

2) 評議員会

第1回 令和3年6月23日(火) ※評議員全員の同意があった日
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、評議員会を開催せず、評議員全員の書面による同意の意思表示を頂き、評議員会の決議があったとみなされました。

- 第1号議案 令和2年度事業報告について
- 第2号議案 令和2年度決算報告について(監査報告)
- 第3号議案 令和3年度第1次補正予算について
- 第4号議案 役員の選任について

第2回 令和3年12月7日(火) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

- 出席 24名 欠席 9名 監事出席 1名
- 第1号議案 令和3年度第2次補正予算について
- 第2号議案 理事の選任について

第3回 令和4年3月29日(火) 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

- 出席 24名 欠席 9名 監事出席 2名
- 第1号議案 令和3年度第3次補正予算について
- 第2号議案 令和4年度事業計画について
- 第3号議案 令和43年度当初予算について

3) 監査会

令和3年5月21日(金) 9時00分 中津市教育福祉センター 多目的ホール
結果: 事業状況、収支決算状況とも特に指摘事項なし

2. 会費、寄付金及び共同募金

1) 会費(会員)

一般会費 4,379口 4,378,500円
特別会費 44口 220,000円
合計 4,423口 4,598,500円

地区	一般会費		特別会費	
中津	—	—	44口	220,000円
三光	1,474口	1,474,000円		
本耶馬溪	910口	910,000円		
耶馬溪	1,215口	1,214,500円		
山国	780口	780,000円		
計	4,379口	4,378,500円	44口	220,000円

2) 寄付金

香典返し	208件	6,946,000円
一般寄附	38件	1,732,671円
合計	246件	8,678,671円

地区	香典返し		一般寄附	
中津	71件	2,218,000円	29件	1,405,718円
三光	37件	1,105,000円	1件	10,000円
本耶馬溪	28件	860,000円	1件	10,000円
耶馬溪	40件	1,700,000円	7件	306,953円
山国	32件	1,063,000円	0件	0円
計	208件	6,946,000円	38件	1,732,671円

3) 物品寄付

ギフトカード	1 件	14,000円
車いす対応車両	1 台	348,000円
米	180 kg	15,000円
車いす	3 台	156,000円
雛人形	1 件	88,000円
介護用品	3 件	0円
衣類	1 件	0円
日用品等	6 件	0円
物品寄付額 (相当額)		621,000円

4) 中津市共同募金委員会への協力

赤い羽根共同募金	19,434件	8,310,056円
歳末たすけあい募金	19,846件	5,910,220円
合計	39,280件	14,220,276円

募金種類	赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
戸別募金	19,426件	8,125,987円	19,281件	3,481,223円
街頭募金	0件	0円	1件	21,593円
法人募金	1件	19,195円	518件	2,025,300円
職域募金	4件	158,396円	2件	2,612円
イベント募金	0件	0円	1件	96,034円
その他募金	2件	6,476円	43件	283,458円
預金利息	1件	2円	0件	0円
計	19,434件	8,310,056円	19,846件	5,910,220円

[戸別募金内訳]

地区	赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
旧中津市内	15,025件	6,278,435円	14,878件	2,688,515円
三光	1,491件	626,220円	1,491件	268,740円
本耶馬溪	947件	396,620円	947件	170,340円
耶馬溪	1,213件	509,124円	1,213件	218,196円
山国	752件	315,588円	752件	135,432円
計	19,428件	8,125,987円	19,281件	3,481,223円

・大分グルメ散歩募金（大分県共同募金事業）100,110円の売上げがあり、その内19,195円を募金。

・期間外募金42,769円（戸別募金：10,000円、自動販売機手数料：32,761円、銀行利息：8円）については、R4年度計上。

5) 中津市共同募金委員会への協力（災害義援金）

大分県豪雨災害義援金	150円	150円
福島沖地震災害義援金	164円	164円
静岡県大雨災害義援金	10,961円	10,961円
豪雨災害義援金として	31,520円	31,520円
(合計)	42,795円	42,795円

3. 住民主体による小地域ネットワークの推進

1) 寄り合いの場支援

住民が主体的に、住民同士の交流・関係づくり・介護予防を目的に行われている場づくりを支援

サロンの種類	数	
地域サロン	6ヶ所	地域の中の民家や空き家等を活用して主体的な拠点を整備し、開催回数も週1～2回で、日常生活に密着した寄り合いの場
広域型サロン	8ヶ所	小・中学校区の範囲で、いきいきサロンの広域版である「交流型」と生きがいややりがいをテーマとした「活動型」
いきいきサロン	81ヶ所	自治区や集落等の小地域で、高齢者等を対象にしながら、月11回程度住民同士の交流の場として実施
合計	95ヶ所	寄り合いの場の種類・説明

※R3年度 新規寄り合いの場：地域サロン百歳（ももとせ）

2) 地域福祉ネットワーク協議会構築支援

地域の社会資源や人材のネットワークを図り、住民一人ひとりが主体的に地域の社会福祉に参加・協力しながら、地域の身近な「支えあい・助け合い」活動を支援。

○地域福祉ネットワーク協議会の組織状況 (地区内の地域福祉推進活動)

No.	校区 地区	組織名称 (校区ネット)	発足 年月日	定例会	事務局会 議等	令和3年度の主な動き	助成金
1	南部	南部地区ネットワーク協議会ぽけっと	H18.10 ↓ H24.4	3カ月に1回	毎月開催	・4サロン合同交流会の開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携 ・情報紙の発行 ・ネットワーク総会、研修会	○
2	小楠	小楠校区地域福祉ネットワーク協議会「OGUSU友愛 2017」	H29.12	3カ月に1回	毎月1回	・部会の組織化と定例会の定着化 (定例会で部会開催) ・地域ふれあい食堂の開催 ・広報紙の発行	○
3	豊田	「生き活き・豊田」	H22.12	随時	随時	・事務局会議開催 (不定期)、総会の開催 (1回)	○
4	沖代	沖代校区ネットワーク協議会	H18.9 ↓ H21.4	随時	第4水曜日	・情報紙の発行 ・定例会の開催 ・交流会の開催 ・あいがも事務局会議 (公民館内) ・ゴミに関する研修会開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
5	大幡	大幡福祉の会“輪”	H20.1	月1回	月1回	・事務局会議開催 (毎月) ・情報紙の発行 (年3回) ・定例会開催 (2カ月/回) ・研修会の開催	○
6	三光	ふくしの里“ややま”	H31.3	-	-	・役員会の開催 ・部会活動の推進 ・情報紙の発行 (年2回) ・防災非常食試食会の開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
7	山国	源流の郷やまくに福祉の会	H22.10	随時	随時	・役員会の開催 ・見守りネットワーク体制づくり支援 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○

○見守りネットワークの組織状況 (地区内の地域福祉推進活動)

No.	校区 地区	名称	発足開始 年月日	全体会	見守りネット ワーク数	令和3年度の主な動き	助成金
1	本耶馬溪	本耶馬溪町ふれ愛ネットワーク	H6.5	随時	17 (自治区単位で構成)	・役員会の開催 (4月、7月) ・推進会議の開催 (4月) ・合同研修会 (9月)	○
2	耶馬溪	耶馬溪町地域見守りネットワーク協議会	H23.5	随時	12 (79自治区を12団体で構成)	・役員会の開催 (6月、3月) ・合同会議の開催 (6月・3月)	○
3	山国	山国地区見守りネットワーク	R2.4	無	4 ※自治区で協議の上、団体を構成	・現在、4団体が活動 (宇曾元・大勢見守りネットワーク 見守りネットワーク「HARUDA」 くさもと見守りネットワーク 肥前屋見守りネットワーク (※R3新規))	○

3) 中津市地域福祉計画・地域福祉活動計画に関すること

第4次中津市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定年度にあたり、コロナ禍においても策定できる方法について創意工夫し、各地区での作業部会を基本に策定。

項目	実施時期	実施回数	内容
事務局会議	5月～3月	11回	5/17、6/3、7/6、8/12、9/13、10/4、11/9、12/20、1/24、2/21、3/17に開催。策定スケジュールの進捗確認、作業部会の進行方法・状況確認、策定委員会準備、冊子構成等の協議。
アンケート調査	4月～5月	1回	中学生～89歳の方が回答。地区別では、南部64、北部78、小楠64、豊田49、沖代63、鶴居71、大幡74、如水76、三保56、和田67、今津56、三光45、本耶馬溪79、耶馬溪81、山国80 不明1 計1,004名より回収
作業部会	前半：7～8月	30回	15地区×2回実施。アンケート結果をもとに主に第3次中津市地域福祉計画について振り返る内容。
	後半：10～12月	45回	15地区×3回実施。アンケート結果をもとに主に第3次中津市地域福祉活動計画を振り返り、第4次地域福祉活動計画について協議、策定。
作業部会オリエンテーション	7月、10月	2回	7/21と10/20、前半と後半の作業部会開始前に、作業部会を担当する市と社協の職員向けにオリエンテーションを実施。

4) 各種団体等助成金

市内において社会福祉を目的として、各種団体やボランティアグループ等が実施する様々な社会福祉貢献活動や事業に対して助成

区分	件数	助成額	助成内容
小地域福祉活動助成 (市)	33件	1,584,000円	見守り活動及び交流活動を行うために、自治区単位で組織されている団体への活動助成
小地域福祉活動助成 (社協会費)	28件	650,700円	見守り活動及び交流活動を行うために、自治区単位で組織されている団体への活動助成
地域福祉推進活動助成 (市)	7件	447,000円	地域の福祉課題の解決を目指すべく組織された地域福祉ネットワーク協議会への活動助成
地域福祉推進活動助成 (歳末)	5件	250,000円	地域の福祉課題の解決を目指すべく組織された地域福祉ネットワーク協議会への運営助成
ボランティア活動助成 (共募)	49件	1,445,000円	会員が自発的に明確な意思・目的をもって結成し、活動している団体への活動助成
ボランティア推進校助成 (共募)	11件	330,000円	小中高等学校が取り組む福祉活動・ボランティア活動に対する助成
寄り合いの場活動助成 (共募)	81件	943,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成
寄り合いの場新規立ち上げ活動助成 (歳末)	1件	30,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成
寄り合いの場活動助成 (社協会費)	60件	1,953,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成 (三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国)

住民型有償サービス活動助成（共募）	10件	1,200,000円	住民主体の在宅福祉サービス（家事援助・身体介護等）団体への活動助成
一般公募助成（共募）	6件	1,095,000円	高齢者・障がい者（児）・子ども・防災など事業への助成（1団体上限34万円）
見守り配食活動助成（社協会費）	2件	102,407円	一人暮らし高齢者等への手作り弁当配食（山国1件）
公民館助成（寄付金）	14件	210,000円	校区（地区）公民館を対象に、地域福祉の拠点や活動の連携を図る目的として助成
民生委員児童委員活動助成（寄付金）	15件	1,017,281円	共同募金（企業募金）実績に基づき助成
自治委員活動助成（寄付金）	15件	1,778,591円	共同募金と歳末たすけあい募金（戸別）実績に基づき助成
合計	337件	13,035,979円	

4. 相談機能の強化による在宅福祉サービスの充実

1) 障がい者福祉サービス事業

障がいをもつ方に対して、ホームヘルプサービス及び訪問入浴サービスを実施

① 居宅介護事業（家事援助）

実利用者数	6名	延利用回数	399回	延活動時間数	434時間
本耶馬溪	4名	本耶馬溪	160回	本耶馬溪	144時間
耶馬溪	2名	耶馬溪	239回	耶馬溪	290時間

（障害区分：身体1名、精神3名、視覚1名、知的1名）

② 居宅介護事業（通院等介助）

実利用者数	1名	延利用回数	6回	延活動時間数	31.5時間
本耶馬溪	1名	本耶馬溪	6回	本耶馬溪	31.5時間
耶馬溪	0名	耶馬溪	0回	耶馬溪	0.0時間

（障害区分：視覚1名）

③ 同行援護事業

実利用者数	7名	延利用回数	144回	延活動時間数	182.5時間
本耶馬溪	4名	本耶馬溪	57回	本耶馬溪	75.5時間
耶馬溪	3名	耶馬溪	87回	耶馬溪	107.0時間

（障害区分：視覚7名）

④ 障がい児・者訪問入浴サービス事業（中津市内で一事業所のみ）（市受託事業）

実利用者数 なし 延利用回数 なし

2) 移動支援事業

自宅に引きこもりがちな障がいをもつ方の外出を支援するサービス（市受託）

実利用者数	4名	延利用回数	41回	延活動時間数	131時間
本耶馬溪	4名	本耶馬溪	41回	本耶馬溪	131時間

（障害区分：身体1名、知的2名、精神1名）

3) 障がい児(者)余暇活動支援事業(てくてく)

余暇を充実して過ごすための活動の場を提供することで、障がい児者の心身の健康増進と自立のための能力の獲得を目的とした事業（市受託）

①-1 実施状況

開催回数	実利用者数	専任職員
10回	20名	3名

①-2 通常開催詳細（延べ）

利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
86名	16名	68名	1名

②-1 Summer てくてく実施状況（夏休み中の臨時開催）

開催回数	実利用者数	専任職員
4回	15名	3名

②-2 Summer てくてく参加状況（延べ）

利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
27名	10名	23名	8名

4) 障がい者ミニデイ支援（鈴の音）

障がいのある方とボランティアがお互いに理解・尊重して、共に地域の住民として交流できる場として、社協として障がいのある方への支援に対するニーズ把握の場を目的として開催。

開催日	開催回数	利用者数		ボランティア数		内容
第3水曜	7回	実数	6名	実数	9名	体操、生花、音楽鑑賞、野外研修等 コロナの感染状況により中止した月がある
		延べ数	24名	延べ数	42名	

5) 障がい者等生活環境整備事業

住環境により福祉サービスを利用できない等社会生活に支障が出ている障がいのある人やその世帯に対する片付け支援事業。（市受託）

支援件数	利用世帯人員	地区	支援内容
1件	単身世帯	北部	ケース会議1回、掃除5回、その他訪問2回

6) 寝たきり高齢者見舞品贈呈事業

市内の寝たきり高齢者世帯に対して、日常生活上の在宅介護に係る負担軽減と便宜を図ることを目的として、歳末助け合い募金配分事業により、見舞い品（介護用品）を贈呈。

（校区）

南部	6件	鶴居	15件	今津	17件		
北部	13件	大幡	11件	三光	14件		
豊田	1件	如水	1件	本耶馬溪	4件		
沖代	12件	三保	3件	耶馬溪	5件		
小楠	7件	和田	1件	山国	2件	合計	112件

7) 福祉用具貸出事業

在宅での要支援者や障がい者等に対して、福祉用具を貸与し、本人や介護者の負担を軽減するなど、在宅生活の支援を図る。

【電動ベッド】

・貸出総数	168台
・保有台数	193台
※内廃棄数	18台

貸出対応件数

中津	11件
三光	8件
本耶馬溪	7件
耶馬溪	3件
山国	6件
計	35件

【車椅子】

・貸出総数	138台
・保有台数	172台
※内廃棄数	13台

貸出対応件数

中津	76件
三光	7件
本耶馬溪	10件
耶馬溪	13件
山国	12件
計	118件

8) 福祉啓発イベント

毎月25日に開催しているフードバンクnico（にこ）の拡大版として「ふくし・環境・地域」をテーマに、地域の団体と協力しながら、家庭の余剰食品や日用品（未使用のもの）の寄付受付、トートバックペイントワークショップ、SDGsに関するパネル展示やフォトスポットなどのイベントを通じて、1人ひとりがSDGsについて正しく理解し、ソーシャルグッドな行動に繋がれることを目的に、開催。

イベント名	開催日	参加者数	内容
nicoday ～あなたにできるSDGs～	10月31日 (日)	約350名	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ（トートバックペイント） ・パネル展示（中津の自然を知ろう！） ・写真大募集!!（モザイクアート） ・フードバンク拡大版 ・フォトスポット（Halloween&SDGs）

9) 介護保険事業

①介護老人福祉施設事業（中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘）

65歳以上で身体や精神上の障がいのため常時介護を必要とし、在宅での介護が困難な人が対象の事業。特に食事、排せつ、入浴など日常生活の介助や健康管理・リハビリ・療養上のケアを提供

（本入所）・・・定員 80名

サービス 実施状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	79名	77名	77名	78名	77名	76名	74名	73名	74名	76名	76名	78名	915名
延べ人数	2,283名	2,383名	2,222名	2,345名	2,298名	2,170名	2,223名	2,136名	2,192名	2,249名	2,119名	2,323名	26,943名	

②短期入所生活介護事業（中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘）

冠婚葬祭や旅行などで介護ができないときに利用したり、介護疲れを防ぐために短期間の施設利用。食事や入浴、排せつなど日常生活の世話やレクリエーション、リハビリなどを提供

（短期入所）・・・定員 20名

サービス 実施状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	22名	19名	19名	20名	21名	19名	20名	20名	21名	21名	16名	16名	234名
延べ人数	488名	513名	444名	477名	535名	486名	480名	459名	487名	493名	409名	464名	5,735名	

③訪問介護事業

要支援者及び要介護者やサービス利用が必要な事業対象者に対して、ホームヘルプサービスを実施

実利用者数	111名	延利用回数	9,594回
本耶馬溪	49名	本耶馬溪	2,973回
耶馬溪	62名	耶馬溪	6,621回

④訪問型サービスA

比較的介護度が低い方（要支援1、2及び介護予防事業対象者）に対し、ホームヘルプサービスを実施

実利用者数	11名	延利用回数	404回
本耶馬溪	6名	本耶馬溪	246回
耶馬溪	5名	耶馬溪	158回

⑤通所介護事業

要支援者及び要介護者やサービス利用が必要な介護予防事業対象者に対して、デイサービスを実施

(通常型) 開設日数	1,224日	日/年	延利用人数	19,823名	平均利用者数	16.2名
三光	306日		三光	2,980名	三光	9.7名
本耶馬溪	306日		本耶馬溪	5,130名	本耶馬溪	16.8名
耶馬溪	306日		耶馬溪	5,979名	耶馬溪	19.5名
山国	306日		山国	5,734名	山国	18.7名

⑥通所型サービスA (生きがい元気アップクラブ)

サービス利用が必要な介護予防事業対象者に対して、デイサービスを実施

(緩和型) 開設日数	460日	日/年	延利用人数	2,857名	平均利用者数	6.2名
三光	205日		三光	1,023名	三光	5.0名
耶馬溪	255日		耶馬溪	1,834名	耶馬溪	7.2名

⑦訪問入浴介護事業

要支援者に対して、訪問入浴サービスを実施 (中津市内で一事業所のみ)

実利用者数 14名 延利用回数 462回

⑧居宅介護支援事業

要支援者及び要介護者に対して、介護計画書を作成。

ケアプラン作成件数 4,637件 件/年

本耶馬溪	1,730件
耶馬溪	1,426件
山国	1,481件

10) 高齢者生活福祉センター事業

高齢者に対して、介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供し、高齢者が安心して健康で明るい生活が送れるよう支援。

(市受託)

入居者数(内ショート利用者)														
施設名/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
本耶馬溪生活支援ハウス	10名	10名	9名	9名	9名	6名	6名	3名	0名	0名	0名	0名	一	
延べ利用者数	300名	308名	270名	279名	231名	180名	147名	79名	0名	0名	0名	0名	1794名	
耶馬溪生活支援ホーム	10名	10名	10名	10名	10名	9名	10名	10名	10名	10名	9名	9名	一	
延べ利用者数	296名	310名	300名	310名	300名	246名	273名	300名	310名	310名	252名	279名	3486名	
山国生活支援ハウス	17名	17名	16(1)名	16名	15名	15名	16(1)名	15名	15名	16(1)名	14名	14名	一	
延べ利用者数	510名	525名	480名	482名	465名	450名	467名	425名	460名	465名	392名	417名	5538名	

11) 老人福祉施設養護老人ホーム運営事業

老人福祉施設事業 (養護老人ホーム中津市豊寿園)

経済的理由、環境上理由により自宅で生活が困難と判断された、65歳以上の自立した高齢者の方が対象の施設。

地域福祉を推進する社協として地域に開かれた施設経営を展開し、地域住民参加の活動を計画し地域交流を深め、

また入所者の生きがいにつながる取組みを積極的に推進。(市受託)

年間在 所状 況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
日数		30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日	
入所者実数		49名	47名	49名	48名	46名	44名	44名	46名	46名	47名	47名	42名		
延べ人数		1,434名	1,389名	1,260名	1,272名	1,302名	1,305名	1,345名	1,298名	1,365名	1,407名	1,140名	1,261名	15,778名	
年間異 動状 況	新規	他施設				1名		1名	2名					4名	
		医療機関		1名				1名						2名	
		在宅		1名	1名	1名		1名	1名		1名	2名		8名	
		その他									1名			1名	
	退所	社会復帰				1名		1名					2名		4名
		家庭復帰				1名				1名					2名
		医療機関				1名	1名								2名
		他施設	2名		2名		1名	1名		1名		2名	3名	1名	13名
	入退院 (外泊)	死亡					1名				1名				2名
		入退院(外泊出)	2名	4名	4名	1名	2名	2名	2名	3名	4名	6名	1名	1名	32名
	退院(外泊戻)		1名	3名	1名	3名	1名	3名	1名	3名	3名	3名	1名	23名	

1 2) 地域包括支援センター事業

平成30年度より、業務の主たる拠点を耶馬溪（市耶馬溪支所内）に置き、三光～山国エリアを担当。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、8月から本耶馬溪にサテライト事務所を設置し、業務を行っている。（市受託）

(1) 包括的支援事業

① 総合相談支援業務

高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活ができるようさまざまな相談に応じる

相談件数	2,460件
------	--------

② 権利擁護業務

高齢者が尊厳を持って生活できるように、虐待や困難事例への対応及び成年後見制度の活用を行う

対応件数	157件
------	------

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

地域のケアマネへの指導助言や多職種連携によるケアマネジメント体制を作る

・ 包括的・継続的なケア体制の構築	68回
・ 地域における介護支援専門員のネットワークの活用	18回
・ 日常的個別指導・相談	126回
・ 支援困難事例等への指導・助言	18回
合計	230回

(2) 介護予防事業普及啓発事業

高齢者を介護している方や地域支援者等 一般住民に対して、介護・福祉サービスや介護予防について普及啓発を図る

○ 介護予防に関する講話、講演会、相談会

実施回数	17回
参加者数	254名

(3) 各種調査業務

① 「食」の自立支援事業実態調査	調査件数	35件
② 住宅改修理由書作成		8件
③ 緊急通報用電話貸与事業実態調査及び相談		17件
④ 老人日常生活用具給付等事業実態調査及び相談		0件

(4) 介護予防支援（計画作成）業務

要支援1.2、事業対象者の方に対する介護予防サービス計画作成に関する業務	相談件数	7,300件
	作成件数	2,692件

(5) 在宅医療・介護連携推進事業

① 相談件数（分類）

全件数	内訳
121件	医療 100件、介護 1件、住民 16件、行政 4件

② 普及啓発

実施回数	人数
75回	132人

(6) 「元気！いきいき☆週一体操教室」立ち上げ継続支援事業

立ち上げに関する相談支援	立ち上げに関わった組織数	パンフレット等の配布
2回	1ヶ所	45人

1 3) 合併周辺地域総合相談支援センター事業

三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国エリアにおいて、障がい者・児の総合相談支援業務を行う。（市受託）

相談件数

相談件数	内訳	障がい種別
174件	障害者 145件、その他 29件	身体29、知的23、精神92、その他29

1 4) 認知症地域支援推進事業

平成27年度からの委託事業。地域包括支援センター内に認知症地域支援推進員を置き、認知症患者・家族に対する支援と認知症理解に向けた地域づくりを行なう。

(1) 人員配置

・ 認知症地域支援推進員 1名 ・ 嘱託医 1名 ・ オレンジコーディネーター 1名

(2) 会議・研修会参加

項目	回数
認知症地域支援推進員等連絡会議（県主催）	4回
物忘れ対応支援チーム会議	10回
認知症初期集中支援チーム検討委員会	2回
認知症の人と家族の会中津支部集い	7回

(3) 認知症支援、普及啓発に関する各種取組

①普及啓発活動

・広く住民に対する理解促進

項目	回数	参加者数	説明
認知症サポーター養成講座	3回	184名	地域の方などに対し、サポーター養成講座を行う。
認知症講演会	1回	110名	認知症に対する理解を深め、認知症があっても地域で支え合い生活できるための関係作り
認知症講話	5回	83名	認知症、認知症予防についての講話。
世界アルツハイマー月間活動	1回	—	イオン三光にて、リーフレットの配布。
マスメディアへの掲載等	4回	—	「オレンジカフェみなど」について広報新聞（朝日、大分合同）テレビ（NHK大分放送、大分朝日放送）

②SOS声かけ模擬訓練

項目	開催日・場所	参加者数
SOS声かけ机上訓練&認知症サポーター養成講座	令和3年10月15日（金）本耶馬溪	33名
	令和3年11月16日（火）山国	34名

③オレンジカフェ

・認知症の方、家族、地域住民、専門職等が集い、共に楽しんだり、理解し合い、つながり再構築の場として開催。

地区	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	合計
開催回数	2回	2回	0回	0回	4回
参加者数（延べ）	41人	24人	0人	0人	65人

④（新規）ストリートオレンジカフェみなど

認知症の方やその家族、認知症に関心のある方、また移動手段、外に出る機会が少ない方々の地域へ向かい、認知症についての相談や気分転換を図れる機会を作る。場所を定めず、開催することが可能となる。なお、屋外で開催するため、密を防ぎ、感染リスクを低減できる。

開催場所	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	合計
実施箇所（延べ）	2ヵ所	3ヵ所	2ヵ所	2ヵ所	9ヶ所
参加者数（延べ）	28人	54人	57人	60人	199人

⑤認知症家族介護者の集い

三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区内の認知症患者を介護している家族に対し、同じ立場の人同士での交流や意見交換の場をつくり、心のケアや介護負担の身体的精神的軽減を図る。年2回開催。

開催回数	2回
参加人数	23人

⑥認知症の人を地域で支える学習会

認知症になっても住み慣れた地域で生活できるよう、医療、介護との連携を図る機会を作り、認知症の理解を深め地域で認知症の人を支える仕組みづくりを図る。

参加対象者：三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区内の医療機関、介護保険事業所、民生委員、警察、住民型有償サービス、市役所職員、地域包括支援センター職員等

開催回数	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・「災害時の認知症の方への支援」～安心できる避難所って？～ ・「地域で広がる認知症カフェ」～オレンジカフェをつくろう！～
参加人数	67人	

⑦その他

・やすらぎ荘・豊寿園研修講師（認知症ケアについて）2回

15) 生活福祉資金貸付事業

低所得者や障がい者世帯に対し、経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めるよう資金面の支援と、相談等を行う事業。申請のほとんどが緊急小口資金という現状。(県社協受託)

資金種類		相談延件数	申請件数	決定	決定金額
総合支援資金	生活支援費	17	0	0	0円
	住居入居費	0	0	0	0円
	一時生活再建費	0	0	0	0円
	特例	889	366	363	131,920,000円
福祉資金	福祉費	21	6	6	2,115,000円
	緊急小口資金	53	34	34	2,879,000円
	特例緊急小口資金	791	349	348	67,850,000円
教育支援資金	教育支援費	6	1	1	540,000円
	就学支度費	6	1	1	540,000円
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	4	0	0	0円
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0円
臨時特例つなぎ資金		0	0	0	0円
合計		1,787	757	753	205,844,000円

※要保護世帯向け不動産担保型生活資金については、県社協が直接担当します。

※特例緊急小口資金、特例総合支援資金(初回)・・・令和4年8月末まで※特例総合支援資金(再貸付)の申請受付は令和3年12月末で終了。

16) 総合相談支援事業

(1) 心のケア事業(ほっとテラス)

医師・心理カウンセラーによる、住民の抱える不安や福祉ニーズへの対応、また、家族関係・人間関係など各種相談に応じる専門相談事業。

担当	相談形式	実績	
		相談開設回数	相談者数
橋本 眞子医師 (精神科医)	奇数月第2水曜 午後2:00~4:00 原則2名 (要予約)	9回	16名

(2) 生活困窮者自立相談支援事業

「生活困窮」の要因をさまざまな視点からとらえ、生活困難な状況について継続的な相談支援をすると同時に、社会的孤立を防ぐ地域づくりを行なう事業。相談種別を限定しない総合相談窓口機能を持つ。

令和2年度に比べ、令和3年度は比較的に新規相談数は減少しているが、長期化するコロナの影響で継続相談や食糧支援の増がみられた。

暮らしの総合相談支援実績

813件

相談種別

病気、健康、障がい	住まい	収入・生活費	家賃・ローンの支払	税金や公共料金等の支払	債務	仕事探し、就職	仕事上の不安やトラブル	地域との関係	家族・人間関係
25件	31件	566件	6件	5件	11件	32件	2件	6件	20件

子育て	介護	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べる物が無い	生活支援	権利擁護	その他	合計
3件	23件	17件	2件	34件	22件	75件	102件	982件

※その他については、他機関との連携や不安の訴え等

(3) 家計改善支援事業

家計のバランスに不具合がおきている方に対して、収支プラン・貸付あつせん表等、短期から中長期の計画表を相談者と作成し、生活の立て直しと自立に向けた家計作りを行う

※コロナの影響で継続支援が増加。貸し付け相談時や相談対応時に家計改善支援員に同席し、家計の相談対応を図る。

相談支援者数	73名
プラン対象者数	2名

(4) 就労準備支援事業

就労への困難を抱えている方に対して、就労体験や就労訓練を行い、就労課題の解決を図る。

また、中小企業家同友会や一般企業、ハローワーク、ジョブカフェ等との連携を図り、就労への一歩を踏み出すための取組を行う

対象者実人数	3名
プラン作成(再プラン含む)	3回
ハローワーク連携対象者数	27名

企業等との連携	2回	大分県中小企業同友会中津支部の定例会への参加・広報 合同会社「は・た・ら・け・る」の洗車体験、協同にて実施。本所・三光・豊寿園(3か所)
はろかふえの開催	1回	コロナ禍により、従来の仕事相談ではなく、ハローワーク、ジョブカフェ、大分県中小企業家同友会中津支部、行政、社協などの関係機関の情報交換として実施
就労体験実施	2名	合同会社「は・た・ら・け・る」との協同として、対象者に洗車体験(6月~9月)や花屋での職場体験(11月~12月)の実施。洗車体験は、社協本所・三光・豊寿園にて実施。

(5) 社会資源等研究開発事業

地域や関係機関などに存在する社会資源を調査し、その役割や連携のイメージを研究・作成する
また、収集・分析したデータを共有し、関係機関等の連携の在り方や必要な社会資源について協議する場を開催する

調査・研究内容	フードバンクnicoの取り組み拡大 ※新たにライスパントリーを実施
---------	--------------------------------------

フードバンクnicoの取り組み（令和2年度より開始）

- ・フードドライブ・・・毎月25日に食品を受付
9月にイオン三光にてフードドライブ実施
11月～3月本耶馬溪から山国までの12か所の郵便局にて実施
中津市役所環境政策課協同にてフードバンクnicoにて実施
nicoday（ふくしまつり代替）にて、フードドライブ実施

フードドライブ

実施回数	寄付者数（延べ）	品数	重さ
14	418名	5,152品	4,517kg

- ・フードパントリー・・・困窮世帯への食糧配布
7月、12月、3月に実施

実施回数	配布世帯数
3回	201世帯

- ・ライスパントリー・・・困窮世帯へのお米配布
12月～2月に実施

実施回数	配布世帯数
5回	250世帯

- ・nicoキッチン・・・食事の提供（カレーライス）
12月に実施

実施回数	提供数
1回	208食

(6) ひきこもり支援事業

ひきこもりの人及びその家族に対する支援事業。家族支援や関係機関との連携により、つながる相談を実施。

①相談支援

相談件数

17件

対象者内訳

男性	女性
13名	4名

29歳以下	30代	40代	50代	60代以上	不明
9名	1名	1名	0名	3名	3名

②家族支援

家族交流会開催

開催回数	参加者数	（内対象者数）
2回	14名	5名
	14名	6名

③広報啓発

地域包括支援センター・居宅介護支援事業所に対して、ひきこもりアンケート実施（市内26事業所にアンケート集計）
北部保健所にて、ひきこもり支援事業（かいと）について説明と周知活動

(7) 一時生活支援事業

ホームレスの人への緊急一時的な宿泊費と衣食の支援（現物給付）

実施回数	63回
実人数	12名

(8) その他の支援事業

①備品貸出し

日常生活に必要な備品（カセットコンロ、炊飯器、電気ケトル、自転車等）の一時貸出し

延べ回数	36回
実人数	24名

②食糧支援

食料がない方への緊急的な食糧支援（米、インスタント食品等）

延べ回数	172回
実人数	43名

(9) その他連携会議

事業項目	回数	内容
支援調整会議	12回	毎月1回、行政（福祉政策課・生活保護係）と社協を中心に相談者の状況について情報共有。
福助ネット会議	10回	毎月1回開催。社協と『おおいた“くらしサポート事業”』に係るCSW及びスクールソーシャルワーカー等が連携し、相談者に対する効果的な支援を行うための会議。（5月・1月はコロナのため中止）
ハローワークとの連携会議	1回	生活困窮者の就労問題についてHWと行政、社協で意見交換を行い、就労先紹介、情報共有等を行う。

17) 福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートセンター中津）

認知症等高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方を対象に、日常生活を営むのに必要なサービスを利用するための情報の入手、理解、判断、意思表示を適切に行えるよう支援を行う。（県社協受託）

- ・年間の支援回数

1,967件

- ・新規相談受付件数

96件

- ・新規契約

45件

 ・解約者

37件

- ・契約者数（3/31現在）

128名

内訳

居住エリア別	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	その他※1	合計		
	94名	6名	10名	5名	5名	8名	128名		
居住状況別	在宅		施設		病院				
	71名		49名		8名				
世帯経済状況別	生活保護世帯			生活保護以外					
	44名			84名					
年齢別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	128名
	1名	8名	11名	13名	9名	34名	41名	11名	
障がい種別	認知症等高齢者		知的障がい		精神障がい		その他※2		128名
	68名		22名		19名		19名		

※1…契約している方が大分・日田・宇佐・豊前の施設等に一時的に入所・入院

※2…障がい疑われる人

- ・生活支援員登録数

21名

18) 成年後見事業

(1) 市民後見推進事業

今後の第三者後見人としての「市民後見人」の養成及び市民への成年後見制度周知等の取り組みについて推進（市受託）

①会議の開催

事業項目	回数	内容
市民後見推進協議会会議	2回	学識経験者・弁護士・司法書士・社会福祉士・行政等と家裁主任書記官（オブザーバー）で構成する事業推進の協議会（6/3、8/20、3/9）

②市民後見推進研修会の開催

開催回数	参加者数	内容
1回	59名	成年後見制度の必要性や市民後見人に対する理解を深めていただくための研修会を開催。

③市民後見人養成講座の開催（隔年開催）

第5期生となる市民後見人養成講座の開催

実施期間	開催回数	内容	受講者数	修了者数
※開催年度はないため実施なし				

④市民後見人候補者フォローアップ研修の開催

今までの養成講座を修了し、市民後見人候補者として登録した人（36名）を対象に研修を開催。

登録更新には各種別1回以上の受講を義務付け。

研修種別	回数	市民後見人候補者参加者数	内容
講義	4回	79人	・高齢者の生活支援について ・高齢者虐待について ・ACPについて 等
実務	7回	57人	・実践報告 ・先進地研修 ・事例検討 等

⑤市民後見人の会との連携・サポート

事業項目	回数	内容
市民後見人の会 活動支援	11回	令和2年度に組織化された「市民後見人の会」に対し、必要に応じて助言や定例会への参加、会独自の勉強会への講師派遣等を行った。役員会への出席9回、定例会への出席（講師派遣含む）2回

(2) 法人後見事業

法人として、後見人となり、被後見人の身上保護・財産管理を行う。

受任時の手続きは職員が中心に行い、日常的な後見事務は後見支援員を中心に実施。(市受託事業)

事業項目	数	内容
新規受任者数	10件	後見：6件、保佐：3件、補助：1件
後見業務	29件	累計受任数44件の事務。これまで12名の被後見人が亡くなっている。他、転居のため辞任1名、補助開始の審判の取消による終了1名。後見：21件、保佐：6件、補助：2件
法人後見支援員登録者数	21名	令和3年度市民後見人候補登録者36名中。
後見業務に携わる支援員数	10名	法人後見支援員21名のうち、実際の後見事務担当者として任命した支援員数。

(3) 成年後見支援センター事業(中核機関)

令和3年度新規事業。成年後見制度の利用促進のために、利用に向けての相談支援や地域や関係機関に対する制度啓発、さらに適切な制度利用に向けての調整役を担う。

①相談対応

R3

項目	件数(延べ)	内容
権利擁護に関する相談件数	160件	成年後見制度説明、申立てに関する事、家庭裁判所に関する事、日常生活自立支援事業に関する事、虐待に関する事、親亡き後の支援の事など
うち申立件数	11件	

②会議の開催

R3

事業項目	回数	協議件数	内容
権利擁護支援方針検討会議	24回	62件	生活に課題を抱える対象者について、制度利用を含めて、今後の支援方針を検討する会議。対象者に直接かかわる支援者で対象者の現状やこれまでの生活歴などを共有し、制度利用の必要性や時期、成年後見人等の候補者などについて協議。対象者の生活を見守る体制づくりも兼ねている。原則月1回開催だが、定例での開催以外に、既存の会議等も活用した。 *権利擁護支援方針シートを整備し、十分なアセスメントを行った。 *この場で制度利用が必要となった事案については、受任者調整会議に諮る
受任者調整会議	6回	14件	令和2年度末に策定された「中津市成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、設置。原則2ヶ月に1回開催。市長申立てや本人・親族申立に関する事案などで受任者の調整が必要な事案について、専門職等で幅広く調整・協議。 構成委員：弁護士、司法書士、社会福祉士、医師、施設職員、行政、社協 計9名

③広報啓発

R3

項目	回数	内容
権利擁護に関する相談件数	15回	成年後見支援センターについて、どういう役割を担うところなのか、説明・周知を図ることを目的に、各種地域の会議や研修会等を活用して説明を行ったほか、既存の広報媒体(広報誌、ホームページ等)にて広報した。

19) 介護保険要介護認定調査事業

要介護認定申請に基づき、認定調査員が自宅や施設へ訪問し、対象の方の心身の状況など調査(市受託)

調査名	更新	新規	変更	合計
件数	1,801件	292件	510件	2,603件

20) 放課後児童クラブ事業

就労等により昼間保護者のいない小学校に就学する児童に対して、授業の終了後における適切な保護及び健全な育成を図る。

(市受託事業)

年間実施日数 1,411日開設

登録児童人数

91名

延利用児童人数

13,509名

真坂	288日
山口	286日
秣	263日
樋田	287日
城井	287日

真坂	22名
山口	20名
秣	16名
樋田	16名
城井	17名

真坂	4,258名
山口	2,367名
秣	2,211名
樋田	2,764名
城井	1,909名

5. 多様な人材による地域活動の推進

1) 住民参加型有償サービス事業(社協型)

自助・互助の精神を基調とした地域の“ボランティア的な”意識を持たれた人々と、低額有料(非営利)のサービスを必要として在宅で自立した生活を営む人々などが、地域に暮らす住民の構築をひとりひとりがお互いに助け合う社会を目指し、地域福祉の向上に寄与することを目的として実施。

社協運営登録者数

協力会員 6名 利用会員 12名 延利用回数 222回

2) 生活支援体制整備事業

地域包括ケアシステムの構築に向け高齢者の生きがいづくり・介護予防の視点を持ち、高齢者ニーズを把握し、生活支援サービスをはじめとする資源開発や地域づくりを行う事業。(市受託)

(1) 生活支援コーディネーター設置

コーディネーター	人数
第1層生活支援コーディネーター	1名
第2層生活支援コーディネーター	6名

南部・今津・三光・耶馬溪・山国・沖代(新規)

(2) 生活支援コーディネート業務

・地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起

内容	第1層	第2層
いきいきサロン、地域サロン等へ参加し、高齢者の実態把握	87回	120回
住民型有償サービス定例会等への参加により高齢者の状況や課題を把握	37回	44回
元気!いきいき☆週一体操への参加による実態把握	106回	

・地域への働きかけ

有償サービスネットワーク協議会への参加	4回
地域福祉ネットワーク協議会会議への参加	69回
民生委員会等への参加	23回

・資源開発

住民型有償サービス立ち上げ支援	0回
担い手の育成(各種講座開催・協力)	16回

・ニーズに対するマッチング

生活支援サービスコーディネート	134回
-----------------	------

・その他

コーディネーター学習会の開催	12回
第2層生活支援コーディネーター活動情報誌の発行	4回

(3) 他機関との連携

地域ケア会議への参加	14回
------------	-----

(4) 協議体

第1層協議体	「生活支援・介護予防を考える会」～移動・外出支援について～	延期
	「生活支援・介護予防を考える会」～高齢者の就労について～	開催なし
第2層協議体	三光地区小地域ネットワーク協議会にて開催	6回

(5) 多機能型地域生活拠点づくり「よりあ」

地区	場所	開催回数	参加者数(延べ)	内容
南部	小祝憩いの家	7回	17名	高齢者の閉じこもり予防の“場”づくり
沖代	すずめの家	13回	99名	困りごと相談、情報提供の“場”づくり
今津	今津拠点	13回	27名	大勢の場所に行きづらいと感じている人の居場所、情報提供の“場”づくり
耶馬溪	まーちゃん家	18回	168名	耶馬溪地区のボランティア等お世話役の方が元気になる“場”づくり
山国	山国社会福祉センター	7回	81名	「共食」をテーマに参加者と一緒に調理、会食を実施。

(6) 会議等への参加・協力

包括 社会福祉士部会	0回
地域ケア推進会議	0回
中津市在宅医療介護連携推進協議会(傍聴)	2回
中津市在宅医療介護連携推進協議会 普及啓発ワーキング	3回
オレンジカフェ	8回
ケース会議	5回
SOS声かけ模擬訓練会議	0回

3) 中津市福祉の里づくりサポーター事業

65歳以上の中津市の介護保険第1号被保険者が、サポーター活動を行うことによって、本人の健康増進・介護予防・社会参加・地域貢献を通じた生きがいづくりを目的として実施。(市受託)

サポーター登録者数	474名
受入登録施設・事業所数	123カ所
評価ポイント内スタンプ数	4,141

(高齢者施設、障がい者施設、児童施設、給食ボランティア、地域サロン等)

中津市福祉の里づくりサポーター事業情報誌「ふくサポNo.6」 発行 年 1回 668 部発行

4) ファミリー・サポート・センター事業

子育て中の家庭を応援するために、子どもの預かり等の援助を受けたい方（おねがい会員）と預かり等の援助を行う方（まかせて会員）との相互援助活動に関する相談援助・連絡調整を行う。（市受託）

おねがい会員登録者数	130名	活動件数	310件
まかせて会員登録者数	93名	活動延時間数	517時間
両方会員	1名	お見合い件数	30件
まかせて会員調査4/7	75名	相談件数	217件
おねがい会員調査4/7	105名	会報発行No.2 4/7	180部
		会報発行No.3 9/7	185部

11月5日：令和3年度まかせて会員養成講座開催 受講修了者 15名

6. 福祉意識の高揚・啓発及び育成

1) 「わいわい福祉ひろば」事業

社協内にハートプロダクションを設け、市内近郊の視覚、聴覚、肢体の障がい者及び手話や点訳ボランティア、高齢者等をタレント登録し、市内の小学校等に派遣し、生活体験の講話や疑似体験学習を通し、障がい者の理解・高齢者理解などの福祉意識の啓発を図る事業。

【コース別】

聴覚コース	14回
視覚コース	10回
肢体コース	12回
エルダーコース	3回
オレンジコース	1回
合計	40回

【年度実績】

実施小学校数（校）	17校
年間開催回数（回）	40回
受講者数 児童生徒（人）	2,206人
受講者数 保護者（人）	56人

2) 地域福祉・ボランティアに関する研修・講座の開催

No.	講座・研修名	回数	参加者	開催時期	対象	概要
1	住民型有償サービスマネージャー研修	3回	54名	7月 10月 12月	住民型有償サービス マネージャー	住民型有償サービス団体でマネージャーとして活動していく上で必要な知識や情報共有を行う。「保険について」「アンガーマネジメントについて」「地域包括支援センターとの合同研修」
2	本耶馬浜町ふれ愛ネットワーク合同研修会	1回	27名	9月	ふれ愛ネットワーク 推進委員	住民主体の見守り活動を行う「本耶馬浜ふれ愛ネットワーク」の合同研修会。「支え合い、住みやすい地域づくりを目指して」をテーマに開催。講師：mottoひよご 栗木剛氏
3	あんさんくフォローアップ研修	1回	36名	10月	あんさんく登録者、今後登録希望の方	果の「からだ測定会」を活用。地域で支え合い活動をする方の健康意識と意欲向上、新たな活動への参加のきっかけづくりを目的とし開催。講師：株式会社HD.Labo代表取締役 野村幸聖氏
4	ボランティア養成講座「発信力向上！活動アピール講座」	1回	23名	12月	市内でボランティア活動をする方	広報力を身につけ、より多くの人に各活動について知ってもらう機会となることを目的に開催。講師：大分合同新聞社北部総局長 安東公綱氏
5	ボランティア入門講座「男塾」珈琲講座	1回	8名	3月	概ね50歳以上の男性	「男性がボランティア活動に参加するきっかけづくり」として珈琲講座を開催。（珈琲講座は「入門編」「養成編」合わせて3回目）講師：奥村哲氏
6	被災者支援を考えるボランティア講座「つながり減災塾」	1回	34名	3月	災害時、被災者支援に関わる団体等	円滑な被災地・被災者支援の実現のため、顔の見える関係づくりを目的として開催。講師を招いての講話および団体同士での情報交換を行なった。講師：オフィス園崎 園崎秀治氏
7	地域福祉講座「サロンだよ！全員集合!!」レクリエーション講座～コロナに負けない！こんなレク！～	1回	38名	3月	寄り合いの場	コロナ禍での寄り合いの場の活動を活性化やお世話役の後方支援を目的に開催。コロナ禍でも活用できるレクリエーション実演と講話。講師：mottoひよご 栗木剛氏
8	本耶馬浜地区「サロン座談会」	1回	12名	3月	寄り合いの場	サロン活動の活性化とネットワークの構築を目的とした本耶馬浜地区でサロンをされている方を対象とした交流会。「コロナ禍におけるサロン活動の必要性」をテーマに開催。講師：mottoひよご 栗木剛氏
9	耶馬浜サロン向け講座『耶馬浜のサロンをもっと元気にしよう!!』	1回	25名	3月	寄り合いの場	サロンのお世話役の方を対象に、「サロンをもっと元気にしよう」をテーマに開催。講師：mottoひよご 栗木剛氏
10	人のつながり応援事業「安全運転講習会」	1回	4名	3月	運転ボランティア	安全運転に関する意識の向上と事業内容の再確認を目的に開催。講師：中津警察署 宇曾駐在所 主任 岡田政樹氏
11	地域福祉講座～地域のつながりづくり～「中津市地域福祉ネットワーク協議会 意見交換会」	1回	40名	3月	地域福祉ネットワーク協議会	地域福祉ネットワーク協議会の役割や地域福祉活動計画との関わりについての紹介や市内の地域福祉ネットワーク協議会の活動紹介（小楠地区）。ネットワーク協議会同士の意見交換会による活動の後方支援及び活性化を目的に開催。

3) 社協だよりの発行

名称	年間発行回数	1回の平均部数	主な配布先	備考
社協だより なかつ	3回	34,850部	市内全戸	6/15、10/1、2/15発行
社協だより なかつ(点字版)	3回	25部	市内視覚障がいの方	同上

4) エリアの取り組み

(1) エリア広報紙(地域福祉情報紙)の発行

地区	名称	年回数	K2	K3
			1回の平均部数	主な配布先
三光	とんぼのめ	6回	2,000部	全戸、公共施設
本耶馬溪	にじのはし	5回	1,200部	全戸、公共施設
耶馬溪	めいぶる	6回	1,600部	全戸、公共施設
山国	かかし	12回	930部	全戸、公共施設

(2) 各エリアの地域福祉の取り組み

地区	内容
三光	※三光地区ボランティア養成講座を開催予定(3/5)でしたが、コロナ感染拡大のため延期
本耶馬溪	いきいきサロン活性化を目的とした買い物バスを運行(3回)
耶馬溪	耶馬溪地域福祉ネットワーク会議を開催
山国	山国地区いきいきサロンネットワーク会議の開催(2回)

(3) 安心生活支援事業(買い物支援事業:山国)

一人暮らし高齢者及び高齢者世帯等のうち、買い物が不便な方が登録。利用者の依頼に対して買い物代行し、自宅に届ける事業。

利用登録会員	27名
実利用者数	14名
買い物配達回数	420件
買い物支援を行った販売金額	644,404円
*1回当たりの平均購入額 1,534円	

(4) 葬祭壇貸出事業

【貸出件数】

地区	耶馬溪	山国	合計
件数	0件	4件	4件

5) 事業所広報紙・新聞

No	広報紙・新聞名	年間発行回数	1回の平均部数	主な配布先
1	やすらぎだより	12回	125部	施設入所者の家族と関係者
2	豊寿園だより	3回	100部	施設入所者の家族と関係者
3	ウテリーだより	4回	80部	利用者の家族と公共の施設(山国地区)
4	なのはな便り	4回	80部	利用者の家族と公共の施設(耶馬溪地区)
5	ひなぎく	3回	80部	利用者の家族と公共の施設(本耶馬溪地区)
6	さんこうデイだより	12回	30部	利用者の家族と公共の施設(三光地区)
7	児童館だより	毎月12回	570部	三光地区の小中学校と児童関係の施設
8	三光子育てサロンだより	毎月12回	50部	子育てサロン会員、市役所

6) ホームページによる広報

地域福祉に関する情報、地域資源の紹介、社会福祉協議会の紹介や求人情報などをインターネットを通じて発信。

ホームページアドレス : <http://www.nakatsu-s.or.jp/>

7. 法人組織体制の強化

1) 職員配置状況(所属別) 令和4年3月31日現在

①所属別

名称	正規	嘱託	非常勤	再雇用	計
総務課	12人	5人	5人	0人	22人
地域福祉課	26人	6人	7人	3人	42人
福祉サービス課	3人	6人	40人	3人	52人
在宅福祉課	35人	18人	75人	6人	134人
豊寿園	9人	4人	25人	1人	39人
やすらぎ荘	37人	6人	20人	4人	67人
計	122人	45人	172人	17人	356人

②拠点別

名称	正規	嘱託	非常勤	再雇用	計
中津市教育福祉センター	18人	8人	4人		30人
養護老人ホーム豊寿園	9人	4人	25人	1人	39人
三光コミュニティセンター	13人	7人	25人	1人	46人
三光生きがい支援センター		1人	4人		5人
放課後児童クラブ(5か所)			18人		18人
本耶馬溪総合福祉センター	11人	7人	10人	4人	32人
市本耶馬溪支所	4人			2人	6人
特別養護老人ホームやすらぎ荘	37人	6人	20人	4人	67人
市耶馬溪支所	8人		2人	1人	11人
耶馬溪デイサービスセンター他	11人	4人	37人	1人	53人
耶馬溪生活支援ホーム		1人	6人		7人
山国社会福祉センター	5人	1人		1人	7人
山国高齢者生活福祉センター	6人	6人	21人	2人	35人
計	122人	45人	172人	17人	356人

※兼任している職員は、主としている事業所に計上

2) 法人内部における会議・委員会

R3	No			No		
	会議名	回数	所管	会議名	回数	所管
	1 課長会議	24	総務課	22 通所介護部会	6	在宅福祉課
	2 エリア会議	57	総務課	23 通所相談部会	0	在宅福祉課
	3 係長会議	3	総務課	24 通所看護職部会	4	在宅福祉課
	4 やすらぎ運営会議	12	やすらぎ荘	25 通所介護職部会	2	在宅福祉課
	5 高齢者虐待防止委員会	2	やすらぎ荘	26 通所機能訓練部会	6	在宅福祉課
	6 認知症ケア委員会	4	やすらぎ荘	27 通所調理職部会	4	在宅福祉課
	7 身体拘束未然防止委員会	14	やすらぎ荘	28 訪問介護部会	4	在宅福祉課
	8 感染症防止委員会	5	やすらぎ荘	29 献立委員会	12	豊寿園
	9 事故防止委員会	11	やすらぎ荘	30 感染対策委員会(定例)	4	豊寿園
	10 褥瘡防止委員会	6	やすらぎ荘	31 感染対策委員会(コロナ)	12	豊寿園
	11 栄養管理委員会	12	やすらぎ荘	32 事故防止対策委員会	11	豊寿園
	12 イベント・行事実行委員会	5	やすらぎ荘	33 身体拘束適正化委員会	4	豊寿園
	13 接遇委員会	2	やすらぎ荘	34 職員会議	12	豊寿園
	14 喀痰吸引委員会	12	やすらぎ荘	35 広報委員会	4	豊寿園
	15 キャリアアップ委員会	16	やすらぎ荘	36 支援員会議	15	豊寿園
	16 看取りケア委員会	4	やすらぎ荘	37 夜勤支援員会議	1	豊寿園
	17 ホームページプロジェクト	なし	やすらぎ荘	38 看護会議	12	豊寿園
	18 主任・副主任研究会	14	やすらぎ荘	39 まつり運営委員会	5	豊寿園
	19 各介護グループ、医務室会議	26	やすらぎ荘	40 運動会運営委員会	5	豊寿園
	20 生きがい通所介護部会	1	在宅福祉課	41 忘年会運営委員会	4	豊寿園
	21 居宅介護支援部会	1	在宅福祉課	42 山間地域サービスあり方検討会	4	総務課・在宅福祉課

8. 各種地域福祉事業

1) 三光児童館事業

18歳未満のすべての子どもを対象とし、遊び及び生活の援助と地域における子育て支援を行い、子どもの健全育成に資するとともに児童館の適正な運営を図った。

1) 開館日数 249日

児童館利用者数	10,996名	就学前児童	310名
(3月臨時休館)		小学生	10,219名
		中高生	132名
		保護者・ボランティア	335名

2) 三光児童館運営協議会の開催

日にち：令和3年3月22日(火) 書面により開催 委員数9名

3) 子育て支援拠点事業

	開催日数	参加者数	場所
子育てひろば	34日	387名	三光児童館内

4) 放課後児童対策子どもの居場所確保事業 (山口児童クラブの受入れ定員を超えた児童の居場所確保)

5) 広報 *フェイスブックでの動画配信6回

9. ボランティア・市民活動の相談、啓発、育成

1) ボランティア・市民活動センター事業

ボランティアコーディネーターを設置し、ボランティア活動の発掘と支援のための相談、連絡、調整、育成、啓蒙活動等を実施。

①ボランティア希望・募集・相談 95件

②ボランティア登録状況

種別	団体数	団体会員数
団体Vo	145団体	3,562名
個人Vo		433名
計	145団体	3,995名

③ボランティア活動保険

ボランティア活動を行う個人・グループが安心して活動が行えるようボランティア活動保険の加入促進。

加入者数 2,698名

④ボランティア体験月間の取り組み

		夏のボランティア体験	春のボランティア体験	合計
実施期間		令和3年7月・8月中止	令和4年3月～4月	
受入施設数		29か所	13か所	
参加者内訳	一般	0名	1名	1名
	大学・専門学校生	5名	2名	7名
	高校生	43名	63名	106名
	小・中学生	8名	1名	9名
	参加者合計	56名	67名	123名

⑤ボランティア・市民活動センター運営委員会の開催

中津市ボランティア・市民活動センターが行う、ボランティア活動・市民活動の推進に関わる様々な事業の運営について、多様な立場の考え方や意見を反映させることにより、さらなる事業の発展及び市民に開かれたセンターを目指す目的として、中津市ボランティア・市民活動センター運営委員会の設置及び開催。

運営委員	10名	学識経験者、ボランティア活動者、当事者団体、地域活動者等で構成
開催回数	2回	8月（書面開催）：前年度事業報告、質問・意見票 3月：令和3年度事業報告、令和4年度事業計画、意見交換

⑥ボランティア情報紙の発行

名称	年回数	1回の平均部数	主な配布先
ボランティア・市民活動情報紙ぺんぎん	6回	5,500部	公共施設、自治委員、民生委員、ボランティアグループなど

10. その他社協事業

1) 福祉バス運行事業

地域福祉活動の研修、交流を図るための福祉バス「さつき号」の運行事業。

運行回数	延利用者数
40回	761名

2) 災害見舞金支給事業

市内に在住する世帯で、災害（火災、風水害等）により家屋が損害を受けた世帯に対して、見舞金を支給。

火災 9件

3) 施設等管理運営事業

No	施設名	開館日数	延利用者数
1	中津市教育福祉センター	307日	20,150名
2	三光福祉保健センター	—	—
3	三光工芸センター	242日	233名
4	耶馬溪介護研修センター	293日	46名
5	すば一く耶馬溪多目的広場	269日	671名
6	山国社会福祉センター	335日	1,798名

※R3/9/22より、三光コミュニティーセンターへ移行

11、各種共催・後援状況、視察受入、協力

1) 行事の共催及び後援状況

No.	形態	日にち	行事名	主催者名
1	後援	R3. 9. 25	2021年度 県北地区 福祉のしごと就職フェア	大分県福祉人材センター (社会福祉法人大分県社会福祉協議会)
2	後援	R3. 10. 10	エコ防災学習会	中津うつくし作戦アーチ実行委員会
3	後援	R3. 11. 28	アースデイ中津2021	NPO法人 アースデイ中津
4	後援	R3. 12. 5	New社の声朗読コンサート	朗読サークル杜の声

R2年度は1件

2) 視察の受入れ、協力状況

※R 3は受け入れなし
